



- ◇特集 京都市移動図書館を知る、考える
- ◇Report 国会図書館関西館・奈良県立図書館情報館見学記

■特集■ シリーズ 図書館利用者のニーズを掘り起こす 2

## 京都市移動図書館を知る、考える



移動図書館をご存知ですか？それは、本などの図書館資料を積んだ自動車で、主に図書館を利用しにくい遠隔地の人のために、定期的に各地を巡回して図書館サービスを行なう図書館です。自動車図書館やBM(Book Mobile)とも呼ばれます。日本の都市にまだまだ図書館が少なかった頃から、熱心な司書さんたちが移動図書館で各地を巡回して、公共図書館サービスの素晴らしさを、たくさんの市民に教えてくれています。市民の図書館の原点の一つとも言えるでしょう。

### 今、なぜ、移動図書館？

以前しばらく住んでいた富山市では、団地内の私の棟の真ん前に2週間に1度移動図書館がやってきて、幼児やお母さんたちで大賑わいでした。学区の小学校の隣に児童図書室、歩いて10分程のスーパーマーケットの2階に読み物や実用書中心の分室と、規模は小さいながら徒歩圏内に2つも市立図書館の分室がありましたが、中央図書館まではバスで20分ほどかかるので移動図書館が来ていたのです。幼い子のなかには「図書館とは本を積んだ車」だと思っている子もいるくらい親しまれ、地域の読書好きの出会いの場でもありました。

京都では、たまたま左京図書館まで徒歩5分のところに住んだことから私自身が移動図書館を利用する機会もなく、しばらく移動図書館に関心を寄せることもなかったのですが、京都市の保健所で行なわれている「絵本ふれあい事業」にボランティアとして参加する中で、京都市の移動図書館について詳しく知る必要が出てきました。

「絵本ふれあい事業」では、8ヶ月健診に来所した赤ちゃんと保護者の方に、親子で絵本を楽しむことの魅力を伝え、末永く本に親しんでもらうために最寄りの図書館の紹介も行なっています。左京区最南

部に住んでいる方にはこどもみらい館子育て図書室、南部は左京図書館、中北部は岩倉図書館と、各図書館が作成した赤ちゃん向けのサービスや行事・地図などを載せたチラシを配布します。

そこで、八瀬大原地区や静原、鞍馬以北などの方にはぜひ移動図書館を紹介しようと考え、移動図書館を利用するための情報を探しました。しかし当初は、巡回基地の場所やカレンダーすらどこを探せば判るのか手探り状態で苦労しました。

そして何より驚いたのは、実際に巡回している地域でも移動図書館があまり知られていないことです。とくに最近宅地開発が進んだ新住民が多い地域の若いお母さんたちは、移動図書館の存在をほとんどご存じないのです。また巡回地域に住む友人に尋ねても、全く知らなかったり「あれは小学校の児童のためのものでしょう」という答えがたくさん返ってきました。一方で、山間部では「冬の間移動図書館がお休みで困っている」という声も聞こえてきました。

移動図書館は、これまで京都市の図書館を考える上で、あまり注目されて来なかったように思います。全ての市民が平等に図書館サービスを楽しむためには、とても大事なもののなのに。 (永井)

## 移動図書館利用者に聞きました

実際に移動図書館を利用している方の声を集めてみました。けやき会員のつてを頼ってお願いした左京区の花背・静原と右京区の越畑の各1家族、山科区陵ヶ岡の2家族の方がアンケートに回答を寄せて下さいました。

### ●愛され喜ばれている移動図書館

どの方もほぼ毎回利用し、「生活になくてはならない存在」となっているようです。

・子どもが生まれて間もない頃、図書館に行きたくても遠過ぎて歩いても行けず、車の運転も出来ず、書店も遠く、本が読めずとても不便でした。やっとベビーカーに乗せられるようになり散歩に出た時に、家の近くの小学校に移動図書館が来ているのに巡り会いました。それからは毎月ほとんど欠かさず親子で利用し、担当の方とお話ししたり子どもの成長も一緒に喜んでもらえて、とても感謝しています。

・移動図書館(愛称はこじか号)は「こじかさん」と子どもたちに呼ばれ親しみを持って知られている。我が家は皆本好きなので他館も頻繁に利用しているが、こじかさんの存在は特別だ。この地域には店もないため、はるばる自分の住む地域に来て下さるということに子どもたちは喜びを感じているようだ。また、狭い館(車)内はぎっしり本が詰まった書架で埋まっており、子どもにとってはかえって全体が把握しやすく、意外な本との出会いがあるらしい。こじかさんは、子どもたちにとっては大切なお友達のように、なくてはならない存在だ。

・いろいろ手に取ってみて、自分に合う本が見つけれ、生活が豊かになります。子どもは毎回たくさん本を借り、本の予約もして楽しみに待っています。

### ●どんな人が利用しているの？

・巡回日が平日なので、平日でも地元にいる大人と幼児。女性が多い。

・赤ちゃんや幼児連れの親子。

・JA前はお年寄りが多い。

・児童数が少ない小学校では、小・中学生全員と教職員も利用している。

・児童数が多い小学校の中には保護者付き添いでの利用を指導しているところも。

### ●移動図書館の情報を知ったのは？

・学校内の掲示版。先生から児童へお知らせがある。時間割に記載される(小規模校)。

・小学校フェンスの掲示版、そこを通らない人は知らないと思う。

・利用者には次の巡回日が書かれたしおりと巡回日程表も載っている「こじかだより」が配布される。

### ●実現してほしいこと

巡回日・時間帯について

・雪で閉ざされる冬期にこそ、来て欲しい。

・現在は月1回だけど、2回来て欲しい。

・夜(午後7時頃)にも来てもらえるとうれしい。

巡回基地について

・もっと人通りの多いメインストリートに基地があれば、多くの人に知られ利用されるだろう。

・他の、図書館から遠い場所にも来て欲しい。

資料・サービスについて

・もっと本を増やして欲しい。

・特に子どもの本の吟味を。子どもたちは「同じ本ばかりで借りる本がない」と言っている。

・夏休み前には昆虫や実験・海の生物などの本を充実させたり、「こういうことに関する本を」といった漠然としたリクエストにも応えてもらえたら、学校で学習している項目に関する本を借りることが出来ると思います。

・借りている本のレシートを発行して欲しい。

## あなたの近くに移動図書館は来ていませんか？ 「うちからは図書館が遠い」という方、要チェック！

### 京都市移動図書館

2007年12月  
巡回日程

3日(月) 西大路小(10:00~10:40)

西京極小(11:00~11:40)

葛野小(13:00~13:40)

5日(水) 松尾小(10:00~10:30)

嵐山東小(10:50~11:50)

嵯峨小(13:10~13:40)

6日(木) 岩戸落葉神社氏子会館(10:00~10:40)

中川小(11:00~11:40)

6日(木) 高雄小(13:00~13:50)

7日(金) 市原野小(10:00~10:40)

鞍馬本町かどや駐車場(11:00~11:30)

鞍馬小(13:00~13:40)

10日(月) 西野山分譲集会所前(10:00~10:50)

山階南小(11:10~11:40)

陵ヶ岡小(13:00~13:40)

(京都市図書館ホームページより)

## 近くに図書館が来るっていいな！

### 移動図書館「こじか号」体験記

聞いたことはあっても利用したことのない移動図書館。地域によっては子どもたちから「こじかさん」と呼ばれて親しまれているという。けやきのアンケートに協力下さった方からもらった移動図書館の「こじかだより」には新しく入った本も少し紹介されている。子ども向けばかりでなく大人向けの本もあるようだ。これはぜひ実際に体験してみなければ。「こじかだより」の巡回日程表で日時を確かめ、巡回基地の一つの修学院小学校に出かけた。

ここでの滞在は10時から10時40分まで。他所の小学校に入るのは不審者と思われまいかと、少々ためらいつつ10時すぎに着くと、校門から少し奥に行つたところの体育館前にこじか号が駐車しているのが見える。

マイクロバスの大きさで、前の入口にはテントが張り出され、職員さんが机を車外に持ち出して、貸出と返却の2テーブルが作られている。そこを目指して敷地内へ。できれば門から見るところに、移動図書館が来ていること、誰でも使えることが一目でわかる大きな案内（のぼりや看板等）があると、初めての人も近づきやすいだろう。

「こんにちは」「どうぞ」とやりとりして車の中へ。この日は曇だったが予想より明るい車内、見れば天窓が三つある。車内の両側に書架が並ぶ。4～5段に本がぎっしり。右手は主に子ども向け、上段には文庫本。左手に大人向けの文学、ノンフィクション、新書、実用書等とりどりに。あつ、足下には紙芝居もある。本棚と天井のわずかな隙間に、手作りの本の紹介が何枚も張ってあつて暖かな雰囲気。

すでに2人が車内に。すれ違うにはちょっとむずかしい幅、「すみません」と声をかけて後方へ。後ろは広く開い

て出入りできるようになっている。車内は狭いはその分、いろいろなジャンルの本が目に入る。これは、という絵本と新書と実用書を借りることとする。おもしろそうな本に出会えて気分よく、外の貸出テーブルへ。移動図書館で借りるのは初めてなので、なんだかドキドキだが、もちろんいつもの京都市図書館カードで借りることができた。「左京図書館でも返却できますか？」と尋ねると「できますよ」と職員さんが丁寧に教えてくれた。

三々五々利用者が校門から入ってくる。予約をしている人が多い。「まだ順番が回ってきませんねえ」などと、利用者と職員さんの和やかな会話も聞こえてくる。外に「カウンター」があるので、図書館内と違って職員さんとも会話がしやすい雰囲気だ。また車内でも知り合い同士が出会って、「この本は...」と読書談義。声かけしないと通れないほどのスペースだけに、コミュニケーションの機会にもなるようだ。暑い日、寒い日、雨の日など戸外での業務は職員さんのご苦労も多いと思うが、こじか号には移動図書館ならではの開放感と親しみやすさがある。

途中、小学校は休み時間になってそばの運動場ではたくさんの子どもの遊び出ししたが、こじか号のそばに来たのは3人程。低学年の1人は「入っていいんですか」と中の利用者に尋ね、「いいのよ」と言われ、うれしそうに中へ。熱心に本を手にとっていた。

40分間で10人程の利用者、この日は全員女性だった。図書館から遠い地域で、予約した本を受渡が出来るのはとても便利で大切な役割を果たしていると思う。でも私が何よりよいなあと感じたのは、実際に本が司書さんと巡回してくることである。

書架をじっくり見ることで新たな本との出会いがある。思いがけない刺激もある。移動図書館が必要としている人にもっと知られ、利用されることを願いながら、次の巡回基地へと向うこじか号を見送った。 (島崎)

12日(水) JA京都中央花脊支店前 (10:30~11:20) 花背小・中 (13:00~13:50)	19日(水) 大原小 (10:00~11:00) 農協静原支所横 (11:20~11:50)	26日(水) 大塚小 (10:00~10:40) 大宅小 (11:00~11:40)
13日(木) 雲ヶ畑小・中 (10:00~10:40) 大宮小 (11:20~11:50) 原谷 (13:00~13:30)	20日(木) 桃山南小 (10:00~10:50) 納所小 (13:00~13:50)	27日(木) 桂東小 (10:00~10:40) 右京ノ里集会所横 (11:20~11:50) 大原野小 (13:00~13:30)
14日(金) 水尾柚子茶屋駐車場 (10:10~10:40) 宕陰小・中 (11:00~11:40)	21日(金) 淀際目町やまさ淀店駐車場 (10:00~10:40) 明親小 (11:00~11:50)	
17日(月) 修学院小 (10:00~10:40) 上高野小 (11:00~11:40) 八瀬小 (13:00~13:40)	22日(土) 京北合同庁舎前 (10:30~12:00)	



## 京都市中央図書館に聞きました

移動図書館の利用者の声を携え、中央図書館へ話を聞きに行ってきました。

### ●沿革と運用

Q (けやき) 京都市の移動図書館の沿革を教えてください。

A (京都市中央図書館) 昭和25年に「青い鳥号」としてスタート、近くに図書館のない山間部など京都市内の周辺地域を巡回し、本を貸出しています。現在の「こじか号」は6代目です。

Q 現在の運用は

A こじか号1台を使用し、約2,000冊の本を搭載し38カ所の巡回基地を回っています。週4日運行し、1日に2～3カ所の巡回基地を回ります。

Q 移動図書館を担当する職員さんの数は

A 職員数は5人で、うち3人は司書です。職員とは別に運転手が1人(業務委託)です。こじか号巡回の際には3～4人の職員と運転手が乗っています。

Q 利用者数の変遷は

A 昭和63年に移動図書館での個人貸出を始めましたが(それ以前は団体貸出のみ)その時巡回基地は45カ所、貸出年間総数は約2万5千冊でした。現在は38カ所で、貸出冊数は約5万5千冊(平成18年度)、これは過去5年間で最高でした。

### ●巡回する基地について

Q 巡回基地はどのようにして決められたのですか。

A 昭和59(1984)年3月の「京都市図書館整備中期計画」により、「当面の目標として図書館は半径2キロメートルを利用圏として建設する」という趣旨の提言があり、この範囲に入りきれない地域への措置として移動図書館が巡回しています。巡回基地の条件としては、無料の駐車場所、利便性が高い場所等、条件があります。その結果、小学校や地域の集会施設などを使用しています。

Q 巡回基地ごとの利用者数は?

A 各巡回基地別の数値の記録はありませんが、右京、西京、伏見、左京辺りは、利用者数が多いようです。

Q 巡回基地の配置見直しはされていますか?

A 移動図書館は既存図書館の補完的なものと位置づけているので、岩倉図書館や深草図書館が出来た時に、その周辺の巡回基地は廃止しています。最近では増えていません。

Q 下京図書館が平成13年に大宮通から新町通に移転しましたが、その結果図書館がずいぶん遠くなった地域があり

2007年10月18日 京都市中央図書館にて  
京都市中央図書館 古野担当課長、木下課長補佐、  
藤井係員

けやき 永井、奥坂、島崎



ます。そういうところへの巡回基地の設置は検討されましたか?

A 下京図書館移転に伴う影響については、京都市図書館全体の設置状況も踏まえて評価・検討を行いました。

Q 移動図書館に新たに来てほしいという要望はありますか?

A ここ数年は地元の要望としては聞いていません。一定整備できていると考えています。

### ●広報について

Q 地域への利用をすすめる広報は

A 来た人には「こじかだより」や次回の予定を載せた巡回予定票をお渡ししています。

Q それは既に利用している人への広報ですね。移動図書館の存在をよく知らない人への広報は? 例えば、地域の自治連合会などへの回覧の要請や区民しんぶんへの広報などはされていますか?

A 回覧の依頼はしていません。巡回している行政区の市民しんぶん区民版へは要請しており、一部の区では掲載していただいておりますが、誌面スペースの関係でなかなか掲載は難しいようです。

### ●積雪期の山間部への巡回休止について

Q 移動図書館は月1回の訪問ですね。但し冬期、積雪のある地域には巡回はないと聞きましたが?

A 花背峠以北、越畑地域など積雪のある地域では1、2月の巡回を止めています。

Q 昨冬は暖冬で、積雪がなかったが、こじか号の巡回はなかった。雪がないなら、来てほしいという声を聞いています。安全確保は大切なことですが、初めから行かないと決めるのではなく、道路事情が許すならば行く、という考え方はできませんか?

A 雪がなくても路面凍結ということもあります。その時々々の気象条件に応じた対応は難しいので、巡回できない分休止期間の前に貸出冊数を増やしています。

●愛されるこじか号

Q けやきが行ったアンケートから、花背や越畑など市街から離れたところでは特にこじか号が頼りにされ、愛されているように感じます。

A 毎回ご利用いただいている方から「喜んでいる」などの感想をいただき、ありがたく思います。また一方で、様々なご意見をいただいておりますので、より一層のサービスの向上を心がけたいと思います。

●貸出・予約について

Q 貸出の仕組みは

A 個人貸出は1人10冊、次回巡回日まで(約1ヶ月)、団体貸出は1団体100冊で次回巡回日まで(約1ヶ月)です。

Q 月2回来て欲しいとの要望がありますが、

A 今の車の台数(1台)と職員数では困難です。

Q 移動図書館でも団体貸出が出来るのですか。

A はい、但し他の図書館での団体貸出とは冊数、期間が異なります。

Q こじか号に利用者用端末は搭載されていますか？

A 利用者用端末は物理的に載せられません。業務用ノートパソコンに当日の図書館データを落して持参していますので、京都市図書館全館の蔵書を検索できます。但し台数は現地での電源確保の問題もあり、1台です。

Q そのパソコンで利用者が自分で予約検索することは出来ないのですか。

A 司書を通して予約・検索していただくことになります。

Q 移動図書館でも、自宅のインターネットや他の図書館で予約した本を受け取ることができるのですか。

A はい、移動図書館の予約は総数が約1万1千件、内約3千件がインターネット予約です(平成18年度)。ちなみに同じ年度の全市図書館の予約総数は約71万5千件、内約37万件がインターネット予約です。

●運行頻度について

Q 現在は午前10時~13時50分頃の運行で、各巡回基地に30分~90分滞在されているようですが、午後遅くや夕方の運行はできないのでしょうか。

A だいたい1日3カ所の運行ですが、毎回、本の入れ換え、予約の対応等、巡回基地から戻ってから作業があります。

●今後の施策

Q 今後の施策は？

A 利用者の拡大に向けて、広報の仕方を検討して行きたいと思っています。巡回基地の配置については1回決めたことはそのまま、とはならないので、利用者のニーズや、既存図書館との兼ね合いを考える必要はあると思います。

巡回予定票



京都市移動図書館 早わかり

使用車両：マイクロバスの改良型「こじか号」

搭載図書資料数：約2,000冊

巡回基地：38カ所。内、小中学校28カ所、その他(地域の集会所、農協、店舗前等)10カ所

巡回頻度：月1回

貸出冊数：一人10冊。移動図書館で借りた図書の貸出期間は次回巡回日まで(約1ヶ月)

団体貸出：1団体100冊。期間は次回巡回日まで(約1ヶ月)

図書の予約：移動図書館で予約ができる。インターネットや他館で予約した本の受け取りも可能。

利用には：京都市の図書館カードで利用できる。

カードがない人は住所氏名が確認できる物を移動図書館に持参して登録

電話番号：京都市移動図書館 075-801-4196(火・日曜日及び祝日年末年始休館)

ホームページ(巡回地一覧、巡回日時がわかる)：

「京都市図書館」のトップページから「京都市図書館一覧」→「移動図書館」

<http://www.kyotocitylib.jp/idou/index.html>



## 他の政令指定都市の移動図書館は

京都市図書館のインターネットホームページ「おこしやす京都市図書館」のリンク集から他の16の政令指定都市の市立図書館のホームページにアクセスし、それぞれの移動図書館の現況を調べてみました。

移動図書館がある12都市のうち、月2回巡回しているのが7市、浜松市は一般の基地には月1回ですが小学校や幼稚園・老人ホームには月2回巡回しています。3市が巡回間隔が月1回、名古屋市は1ヶ月半に1回でした。

基地の数は17カ所のところあれば121ヶ所もある市もありと、それぞれの市の図書館事情と関連して様々です。基地が19ヶ所の千葉市には14の図書館と20の公民館図書室があります。月1回巡回の大阪市の基地の数は69、巡回間隔が最も長い名古屋市は、121カ所の基地を2台の移動図書館が巡回しています。巡回の間隔が長いのはたくさんの基地を巡回しているためもあるようです。また、仙台市のように月2回76カ所を巡回しているところもあります。基地になっているのは、どの市も小学校や団地が多いですが、公園や公民館前それに神社やお寺も多く、私鉄の駅前広場に行く移動図書館もありました。

移動図書館はどこも特別仕様のマイクロバスです。京都市のものとは違い側面が跳ね上がって屋根になり車外から書架を閲覧出来るタイプもあります。このタイプの移動図書館は雨天時には大変ですが（休むところもある）、神戸市のは電動テントが設置され雨天時でも快適に利用できるそうです。この神戸市の移動図書館には身障者用のリフトが設置されており、車内で車イスの利用が出来ます。移動図書館の所有台数は1～3台、1台で週5日稼働して2週間に1回26ヶ所を巡回しているところもありました。

4つの政令指定都市には移動図書館がありませんが、このうち札幌市には平成10（1999）年まで移動図書館がありました。現在札幌市には、図書館・図書室が合計43カ所もあります。図書館・図書室が多数設置整備された結果、移動図書館は廃止されたようです。同様に移動図書館を持たない新潟市も図書館が13、地区図書室が29と計42の図書館・図書室を持っています。ちなみに京都市は月1回38カ所の巡回、図書館・図書室は20館です。



## 移動図書館は

### 公共図書館を身近な存在にする

移動図書館の存在を知らない、あるいは、自分も利用できるということを知らない人が、京都市民にはまだまだたくさんいるようです。小・中学生はもちろん、お年寄りや幼い子ども連れの人、車を運転しない人にとっても、こじか号はなくてはならない存在です。こじか号がより多くの人に利用されるような広報を、なんとか工夫できないでしょうか。例えば利用案内や巡回カレンダーを地域で掲示したり回覧するとか巡回時目につきやすいようにのぼりや看板をたてたり。移動図書館をもっともったくさんの人に知って欲しいと思います。

今回のアンケートや取材で、移動図書館が利用者に愛されていることや図書館利用者の裾野を広げるのに大きな役割を果たしていることを、再認識しました。京都市でも移動図書館の基地を積極的に増やし、移動図書館のサービスを拡大充実させてはどうでしょうか。

図書館サービスを全ての市民に十全に行き渡らせるには、願わくば子どもやお年寄りでも歩いて行ける半径1キロメートル以内のところにぜひ図書館が欲しいものです。しかし図書館の新設はなかなか厳しい状況にあると聞きます。現行の半径2キロメートルの利用圏にさえ入らない地域が市内の周辺部だけでなく中心部にもあります。一種の図書館分室ともいえる移動図書館の基地を増やすことで、より多くの市民が図書館を利用出来るようになるのではないのでしょうか。移動図書館は、公共図書館をとっても身近な存在にしてくれる、非常に力強い働き手だと思ふのです。（永井）

## 市民の声を

実際に移動図書館を利用している方々の声をもっと知りたいと思います。移動図書館がこんな風に役に立っている、地域でこのように利用されている、もっと改善してほしいことなど、ぜひけやきまでお寄せ下さい（連絡先は10頁に記載）。

また、京都市に移動図書館があることを初めて知ったという方、どんな感想をもたれたでしょうか。ぜひご意見をお寄せください。

## 国会図書館関西館と奈良県立図書館を訪ねて

夏の一、けやき会員に呼びかけ、国立国会図書館関西館と奈良県立図書館の見学に出かけました。国会図書館関西館は、職員さんの丁寧な案内に導かれ普段は一般利用者は見ることが出来ないバックヤードも覗くことが出来ました。奈良県立図書館ではあいにく一般見学は休止期間中で、立派なパンフレットを手に各自自由に館内を見て回りました。

(参加9名 2007年8月7日)

### ◆早速登録をしてきました—国立国会図書館関西館—

国立国会図書館と聞くといかめしく感じますが、満18歳以上なら誰でも利用することができる図書館です。国立国会図書館では、日本国内で刊行される出版物については納本制度に基づいた収集・保存がなされ、また外国出版物についても選択的大規模収集が行なわれています。

また、国会と名の付くとおりまず国会へのサービス、次に行政・司法へのサービス、そして私達一般国民へのサービスが、国会図書館のサービス3本柱になっています。

国立国会図書館は、東京本館及び関西館と国際子ども図書館などの支部図書館に分かれています。東京本館が手狭になって2002年に作られたのが、今回訪れた関西館。関西館では、科学技術関連資料、アジア言語資料、国内外博士論文などが特に充実しています。

学研都市の一角に、緑を上手に取り入れながらゆったりと建てられた白くて四角いシンプルな外観はさほど大きく見えないのですが、それもそのはず。ほとんどの資料は、空調が強い災害に強い地下書庫に保存され、必要に応じて、コンピュータ制御の搬送車に乗って書庫から出納されるシステムになっているとのこと。普段は入れない地下の書庫も見学させて頂きましたが、膨大な資料が、保存に適した室温湿度で管理され、外の猛暑とは別世界でした。

館内に入るには、まず駅の切符売り場のような機械で館内利用カードを作成します。ゲートを通して入館した後は、閲覧室にある端末、NDL-OPAC(オンライン目録)で、利用したい資料を検索します。アジア言語資料については、アジア言語OPACを使います。探し方がわかればカウンタースタッフがとても親切に教えてくれます。

資料が見つければ請求し、資料が書架から出れば、館内のあちこちにある(4階のカフェ内にもある)到着案内ディスプレイに、利用カード番号が表示される仕組みになっています。閲覧席で閲覧したり、必要があれば著作権法の範囲内で、複写サービス(いわゆるコピー/有料)を利用できます。資料の保存を主な目的としているため、国立国会図書館の資料は「貸し出しはできない」という点が地域の公共図書館と大きく異なっています。

精華町まで出かけることが不便な場合など、遠隔地利用サービスを利用できます。

左京図書館などの公共図書館を利用して図書館間貸出を受けたり、あらかじめ利用者登録をすれば、インターネット上でNDL-OPACから資料を特定し、郵送でのコピーサービスを受けることも可能です。

今回の見学会参加者たちも早速利用者登録をしてきました。閲覧予約や取置サービス、東京本館・国際子ども図書館の資料の取寄せも利用でき、うまく使えばとても便利そうです。

公共図書館や自力では探すことのできなかった資料が、国立国会図書館では必ず見つけ手にとることができるというのは、図書館利用者にとって心強い支えであると感じた一日でした。(余田)

### ◆図書資料だけでなく、インターネットやデジタル情報も利用できる「奈良県立図書館」

国立国会図書館・関西館見学の後、奈良市内にある奈良県立図書館へと足をのぼした。平成17年11月、近鉄奈良駅近くにあった県立奈良図書館、南部の橿原図書館が閉館となり、この館が開館した。近鉄大宮駅よりバスで15分、閑静な住宅街の中にあつた。木の歩道を配したちょっとした公園を思わせる前庭を通り抜け、館に入っていくとそこは2階。広いロビーの奥では県内の市町村の昔話が展示されていて、脇のカウンターには、県下各市町村の案内のパンフレットが積まれていた。

そしてゲートをくぐると、まず目に飛び込んできたのは、パソコンがあるいくつかの円形のテーブル、そしてそれを検索する人々。そしてぐるっと回って行くと、<AVコーナー>、電子出版物やウェブページを作成することができる<アトリエ>、映像編集ができる<オーサリング・ルーム>、撮影・編集ができる<デジタル・スタジオ>、<LLルーム>、<点字・音声出力室>、パソコン研修ができる<セミナールーム>が続いていた。今や何か情報を探し出したいとき、パソコンでの検索が一番便利である。さらに自分で何かを創作し発信したい人には、個人で

は手の届かない高価な機器をここでは利用できる(有料)。またCD-ROMやネット上のEラーニングやCS放送を利用して、自主学习もできる。館内にはセミナールームでのパソコン教室の案内が貼られていた。現代の情報化社会を、誰でも享受できる機会をここは提供している。

正面ゲートから見えた広い階段を上がっていくと、3階には開架図書が並ぶ。まずは書架の多さと、それをとりまくように配置されている机、座席の多さが目についた。そして雑誌が並ぶブラウジングコーナーには、意匠的な椅子が広々と配置されていた。そしてこの階で特筆することは「戦争体験文庫」。満州事変から終戦前後までの資料と体験記が、全国から約5万点寄贈されている。これらの資料を手にとることによって、<戦争>の現実をより厚みのあるものとして私たちに教えてくれるだろう。

また、少人数のグループ研究室が3室あった。読書会を

開きたいとき、無料で借りられる。また1階の交流ホールで講演会も開くことができる。図書館の中で講演会や読書会ができる、これも魅力の一つである。

今日の疲れを癒すため、自動販売機のある玄関近くのカフェコーナーに座った。コーヒーとともに、ゆったりとした庭を眺めながら、いくつかの思いが交錯した。急速に発展する情報化社会の中で、図書館はどのように発展していけばよいのだろうか。広い山間部を抱える南部の玄関口に位置した榎原図書館が、北部に位置するこの図書館の開館に伴い閉鎖された。奈良県南部の人達へのサービスはどうなっているのだろうか。京都府立図書館と同じくここでも新しい図書館となって児童書のコーナーが廃止されたが、これからの図書館を模索した新しい図書館に、結果的に子どもたちが遠ざけられることになるのでは、等々。

(片井)

## TOPICS

### 第23回映画上映会

10月18日

「ユネスコ世界遺産」シリーズのカンボジア編とタイ・インド編を上映、文化映画の上映会もすっかり定着したようです。今回は上映前に館長さんによる解説があり、参加者へのアンケートも実施されました。今後益々参加者の声が活かされた映画上映会になるといいですね。

### 第3回「読み聞かせ」交流会

11月2日・9日・16日

今年も左京区南部の小学校9校の読書ボランティア延べ80名が参加。昨年好評だった内容をさらに工夫して中身の濃いものになりました。詳細は次号で。

### 第7回 おとなのための語りを楽しむ会

11月17日

今年も京都おはなしを語る会のみなさんによる語りを楽しむ会が開催されました。前日まであった読み聞かせ交流会の参加者が5組も親子連れで来て下さったり、初参加の男性も2人いらしたり、例年以上に多彩なみなさんが、最後まで熱心にお話に耳を傾けて下さいました。アンケートにも全員応えて下さり、小学2年生が最後の15分もあるお話がとてもおもしろかったと言ってくれたり、数人の方から次回は何時との問合せもあり、語り手の方たちにも元気を貰えたと喜んでいただけたお話会でした。

### けやきの活動 07年7月～07年11月

7/26 ニュースレターNo.25印刷発送	10/18 ニュースレターNo.26特集	・7/28.8/25.9/22.10/27.11/24 (第4土曜) 図書館おたのしみ会に協力
8/7 国立国会図書館関西館・奈良県立図書情報館見学会	のため京都市中央図書館に取材	・7/20.9/28.10/26 .(原則第4金曜日) 絵本学習会
9月上旬～ ニュースレターNo.26アンケート・取材・原稿作成・編集	10/18 第23回映画上映会	・7/2.8/7.9/3.10/1.11/5.11/26 (第1月曜他) 事務局会議
9/22 絵本コーナーの飾りを作る会	10/30.11/9 「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打ち合わせ	図書館とのミーティング
10/5 左京区ボランティアグループ連絡会に出席	11/2.9.16 「読み聞かせ」交流会	・7/5.12.19.26..8/2.9.23.30.9/6.13.20.27 10/4.11.18.25.11/1.8.22. (毎週木曜10:30-12:00)
10/18 京都市子ども文庫連絡会連続学習会でけやきの活動について報告	11/17 第7回おとなのための語りを楽しむ会 (図書館主催行事には協力)	絵本コーナーで「あかちゃんに絵本を」サポーター



## 京都市子ども文庫連絡会 連続学習会

### 図書館のある暮らし 市民にとっての図書館とは

京都市子ども文庫連絡会は今年度「図書館を学ぼう」のテーマで学習会を開いています。第1回は「京都市の図書館 あゆみと今」、今回は第2回で「図書館のある暮らし 市民にとっての図書館とは」というタイトルで開催。参加者は京都市で子ども文庫活動に関わる方々です。

まず、京都市向島図書館長・大阪府島本町立図書館長など長年公共図書館の仕事をして来た村上敏明さんが、公共図書館の任務—その機能と使命について歴史的経緯を踏まえて話され、より深く学ぶための参考資料もたくさん提供して下さいました。けやきの学習会であれこれ学んできましたが、基本として理解しておくべきことがまだまだたくさんあることに気づかされました。

続いてけやきの永井代表が活動を紹介。共に参加していた会員の奥坂さんが「であいの森」の活動を、私もニュースレターのことなどを話しました。左京図書館の移転開館を機にけやきの活動が始まって試行錯誤しながらも8年がすぎ、市民の視点から気づいた問題やアイデアを図書館の運営者や利用者に伝えたり、両者をつなぐ活動が出来るようになって来た、そんな最近の実感も話しました。

参加者からはニュースレターの特集テーマの下、事務局

で取材したり話し合ったりしながら問題を考えて行く、その活動スタイルがおもしろいと言われました。事務局会議で毎回どうしようこうしようやってきたことが、積み重ねると存外ユニークなものなのか、と改めて認識しました。「けやきの活動は利用者の働きかけが実を結んだ素晴らしい実例」ともほめて頂き、また「行動しないと始まらないのですね」という言葉も頂きました。

左京区以外の人参加するこのような機会にけやきの活動を紹介することで、他の地域で図書館のことを考え活動している人達にも参考にしてもらえるのでは、とも感じました。これも8年間の積み重ねの成果かもしれません。

図書館の意義がもっと知られ、図書館がもっと身近な存在として機能するように。しんどいなあと思うこともあります。これからも地道に活動していこうと思います。

(島崎)



参加者からはニュースレターの特集テーマの下、事務局

けやきの  
本棚 26

わたしの  
おすすめの本

もみじちゃん

チュウ



村上康成作 ひかりのくに 06年

もみじちゃんはみんなにあいさつ「こんにははでチュウ」。いのししさん、さるさん、へびさん、さげさん、のりちゃん、みんなにあいさつしたから、みんなみんなまつかつか。林も森も原つばも川も山も空もまつかになつたら「パラッパ パラッパ」、おもしろいよ。楽しいよ。

（伊藤ほのか 養徳小3年）  
異国を楽しむ

池内紀著

中公新書 07年

海外旅行の準備から話が始まる。「洞穴のようにポツカリ口をあげた機体のお腹に入って」旅の終わりへと向うまで、英語など流暢に喋らない方が親切にもらえる、そういった異国での一寸したもろもろの楽しみを、独文学者である著者が、その絶妙な切り口を歯切れの良い軽快なリズムにのせて、読者を街や

公園や動物園や劇場へと連れてくれる一刻。

(M・H 北白川)

そつと耳を澄ませば

三宮麻由子著

集英社 07年

幼いときに失明した著者は、視覚を補うという面を超えて、はるかに様々な感覚を磨かれたのだ。ユーモアの精神とともに、その繊細で豊かな感受性が捉えた日常世界は、私達の五感が失っていたとさえ言える世界をくつきりと描き出しています。自然とつながって生かされている私達という感覚でさえも…。

(Y・Hさん・左京図書館)

親子で楽しむ

野菜作り

板木利隆監修

家の光協会 99年

野菜作りを始めた時、手にした本です。栽培のやさしい初級から順に、イラストも使い分かりやすく説明してあります。土の働き、よい土とは、土の改良の方法などの説明も丁寧です。生ゴミ堆肥の作り方では、牛乳パックを使った方法も紹介され、ゴミ減量、虫や匂い、場所の問題も解決できそうと、興味をひきました。

(会員・NAO・一乗寺)

図書館友の会けやき・京都市左京図書館 共催

## ポーランドの絵本展 2008年1月17日(木)~21日(月)

けやき会員の川端春枝さんがポーランド滞在中に買い集められた絵本を中心に、京都市国際交流会館図書・資料室所蔵のポーランドの絵本や京都市図書館にある日本で翻訳出版されているポーランドの絵本も併せて展示します。また19日(土)は、会場を図書館上の会議室に移し、ゆっくり手にとって絵本をご覧いただける他、川端さんのお話やポーランド人の留学生さんによる絵本の読み語りを聞く会も行ないます。みなさんお誘い合わせて、ぜひお越し下さい。

1月17.18.20.21日 左京図書館にて絵本の展示

1月19日(土) 左京合同福祉センター3階会議室(左京図書館の上階)にて 10~16時 絵本の展示

11時~ 川端さんのお話「ポーランドで出会った絵本」

ポーランド人の留学生さんによる絵本の読み語り

図書館友の会けやきの仲間になりませんか  
知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ、  
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。  
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと「けやき」を作りました。図書館のスタッフとともに、左京図書館を支え、育てていきたいのです。

### こんな活動をしています 一緒にしましょう

子どもたちに絵本を読んだり、人形劇やおはなしも。  
赤ちゃんの本選びのお手伝いや絵本についての相談も。  
映画上映会など左京図書館の催しに協力したり、  
「けやき」のテープ録音や、絵本コーナーの壁面を飾る作品を作ったり。  
図書館の現状を調べたり、提案も。 ニュースレター「けやき」を発行。

### ぜひあなたの思いを形にして

図書館友の会「けやき」の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方  
TEL/FAK 075-721-2625

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番  
口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送料の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

## けやき情報板

### 冬のスペシャルお楽しみ会

日時：12/15(土)午前11~12時

場所：左京図書館の上階、3階会議室

雨の日文庫きょうとさんによるのぞきからくり風「ももたろう」、大型紙芝居やエプロンシアターも。手品に使える「ふしぎないえ」も作ります。持って帰ってみんなをびっくりさせよう。

### 絵本コーナーの壁面を飾る会

日時：12/22(土)午後2時より

場所：左京図書館の上階、3階会議室

テーマ：冬の動物園

冬の動物園で元気な生き物はなにかなあ？冬眠している動物は？いちど一緒に行ってみましょう。申し込み不要。子どもも大人も、一緒に絵本コーナーを飾りませんか。

たき取昨だでれしみーニ▽動れるのレと上実や体▽  
とがっ今なはした上グ新ユトしか「頃タしで際は験今  
自熱てはい借い。げルさ1月たら式かして伝利り。回  
負心い当とり限長ものれアにいもでらけきえ用百車動  
しにまたかたり年で案てル図とフや「やまたし聞体動  
て要すり。本でのき内英。書思ツっ見きしいてはの図  
い望が前他のす要るが語ホ館いとてて「たこみ一様書  
まし、ののレ。望よ載。1のまワき聞は。とて見子館  
す実こよ図シ移がうり中シすしまい立「も、にかこ  
。現れう書し動実に、国ベス。クしてちニはけ如らじ  
(をにも館ト図つな音語しテ(軽た考上ユつやかしか  
り)早け受でが書てり声・ジム(きく。えがしききずて号  
めやけはま館うま読ハもが)活こりスリ紙。、を

編集後記

◇けやき 第26号 2007年11月27日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん  
カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方  
TEL/FAX 075-721-2625